

**平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査
帯広市立帯広第四中学校の結果について**

I 調査の概要

1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

- 帯広第四中学校第3学年の生徒

3 調査の内容

① 教科に関する調査（国語、数学、英語）

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容
- ※上記を一体的に問う。

② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査を実施

4 調査の方式

悉皆調査（対象の生徒が参加）

5 調査の実施日

平成31年4月18日（木）

6 調査を実施した生徒数

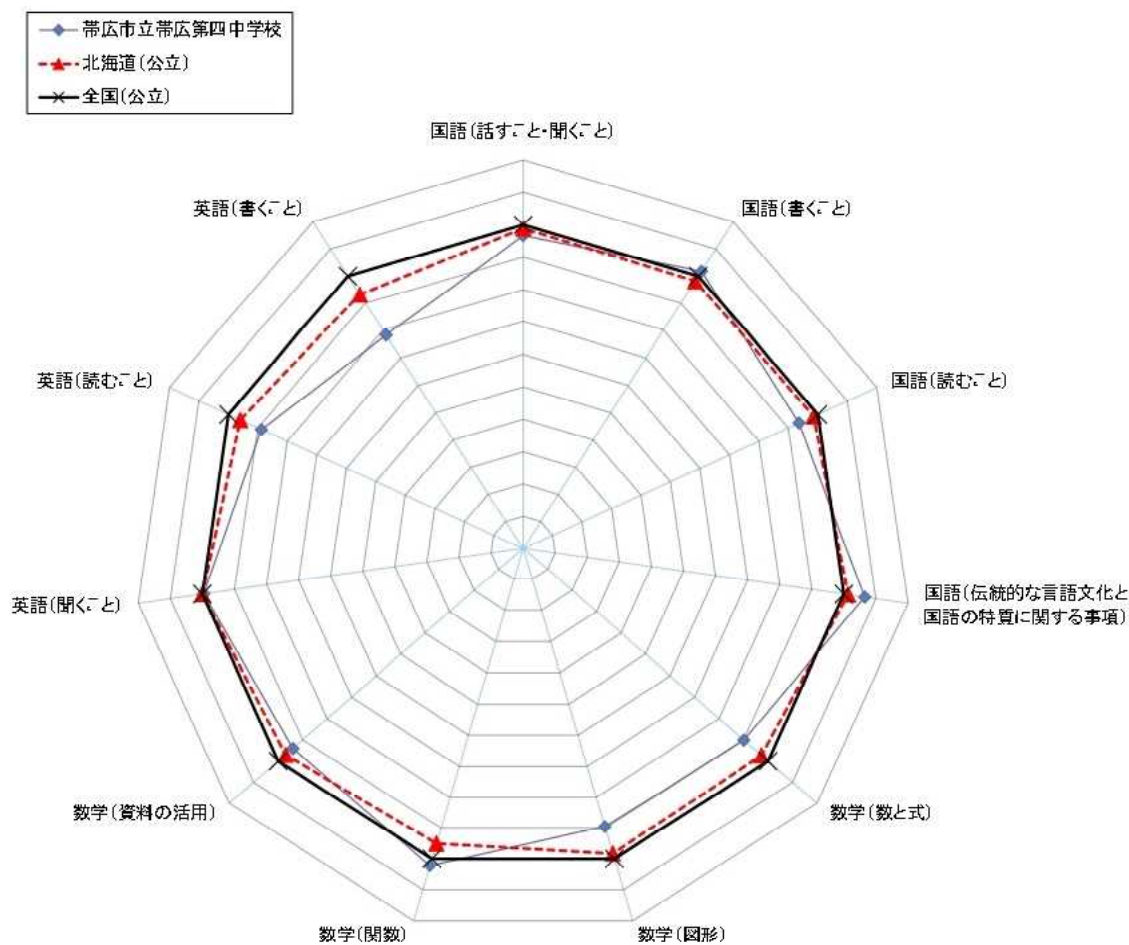
105人

7 調査結果の解釈等に関する留意事項

- 本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意する必要がある。
- 本調査の結果においては、平均正答率等を示しているが、これらのみで必ずしも調査結果のすべてを表すものではなく、中央値、標準偏差等や分布の状況を表すグラフの形状など他の情報と合わせて総合的に結果を分析・評価する必要がある。また、個々の設問や領域等に目して学習指導上の課題を把握・分析し、生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることも重要である。
- 今年度から実施した中学校英語の結果は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」について示している。「話すこと」については実施生徒数が異なるため、参考値として示している。

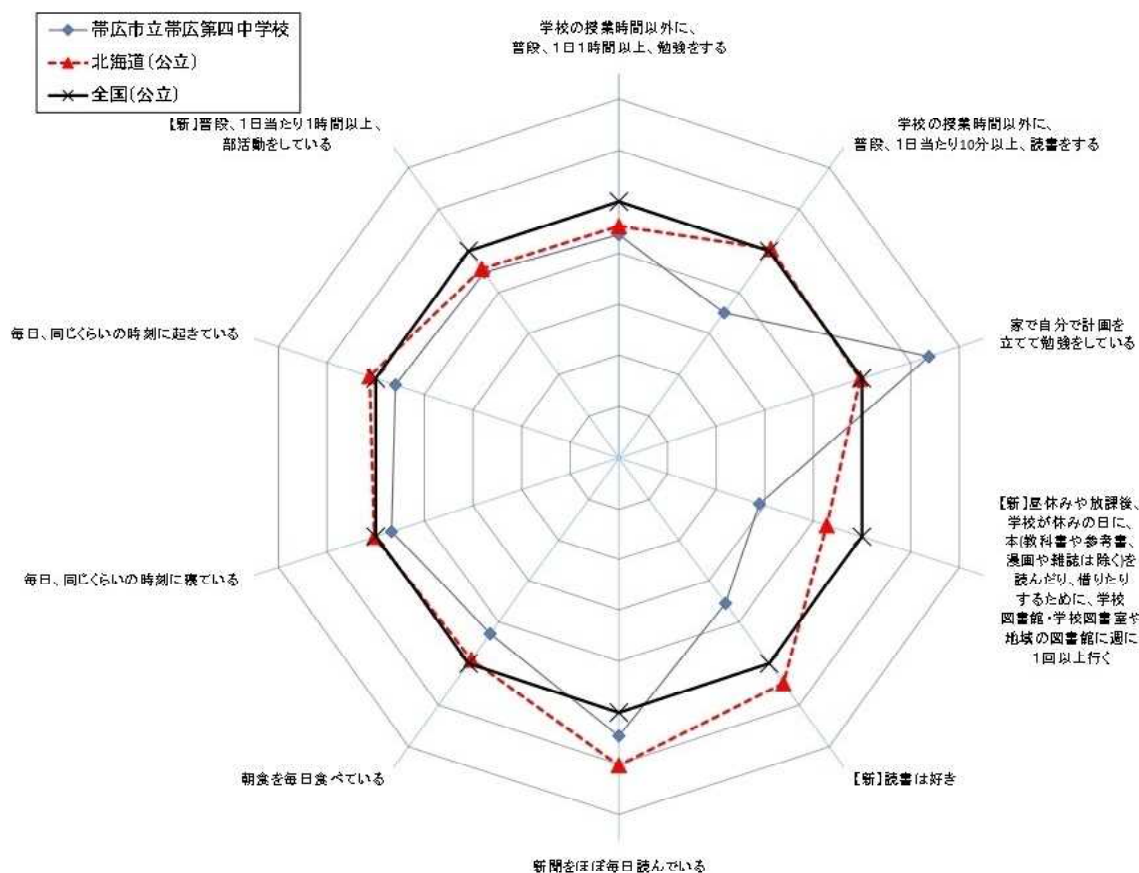
II 結果の概要

1 各教科全体の調査結果



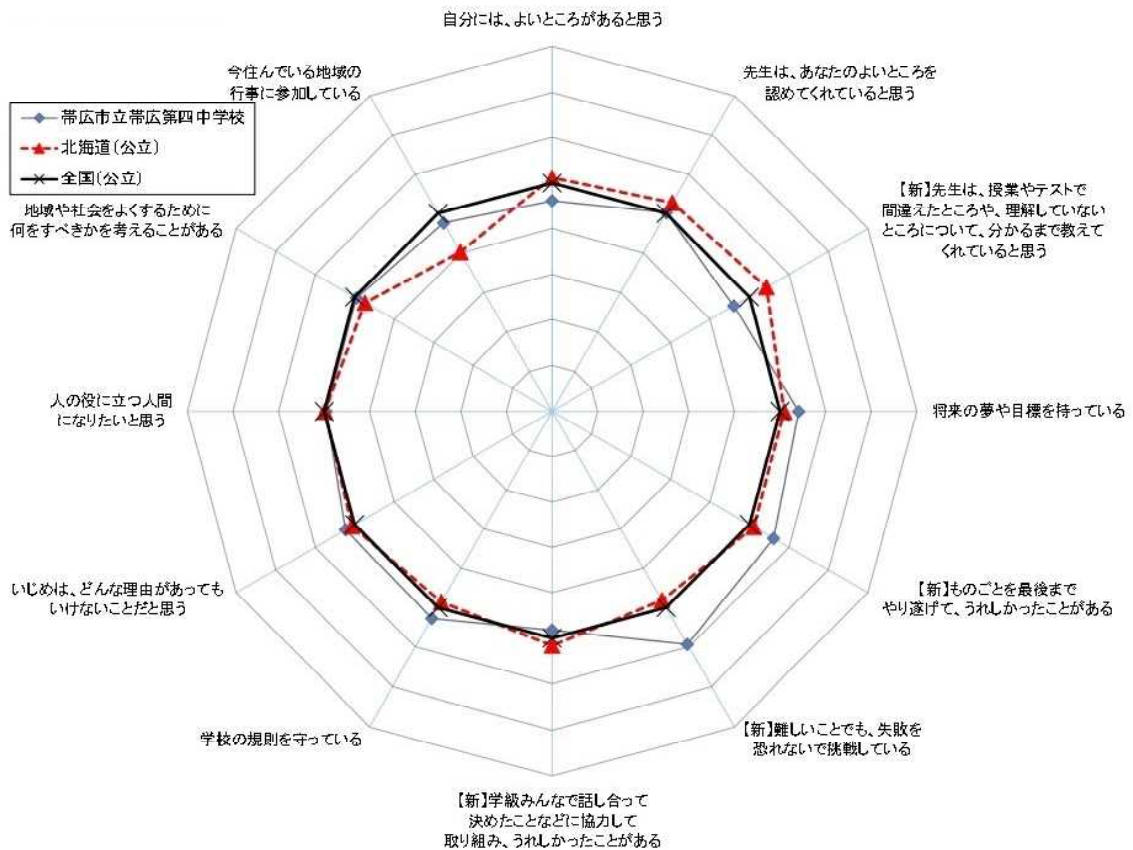
- 「国語（書くこと、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項）」において全国・全道を上回った。
- 「数学（関数）」において全国・全道を上回った。
- ▲「数学（図形、数と式）」において全国・全道を下回った。
- ▲「英語（書くこと、読むこと）」において全国・全道を下回った。

2 生徒質問紙（学習習慣、生活習慣）の調査結果



- 「家で自分で計画を立てて勉強している」において全国・全道を上回った。
- 「新聞をほぼ毎日読んでいる」において全国を上回った。
- ▲「学校の授業時間以外に、普段、1日当たり10分以上、読書をする」が全国・全道を下回った。
- ▲「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館で週に1回以上行く」において全国・全道を下回った。
- ▲「読書が好き」において全国・全道を下回った。
- ▲「朝食を毎日食べている」において全国・全道を下回った。

3 生徒質問紙（自尊心、規範意識、地域社会等）の調査結果



- 「将来の夢や目標を持っている」において全国・全道を上回った。
- 「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」において全国・全道を上回った。
- 「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」において全国・全道を上回った。
- 「学校の規則を守っている」において全国・全道を上回った。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」において全国・全道を上回った。
- 「今住んでいる地域の行事に参加している」において全道を上回った。
- ▲「自分には、よいところがあると思う」において全国・全道を下回った。
- ▲「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う」において全国・全道を下回った。
- ▲「学級みんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある」において全国・全道を下回った。

Ⅲ 各教科方策

1 国語

- ①漢字を書くことの指導については、部首に注目させたり、同じ漢字を用いた語句と関連させたりしながら、漢字についての理解を深めていくように指導する。
- ②目的や場面に応じ的確に書く力を身に付けるために、図表等を用いて説明したり、文章から適切な情報を取捨選択して自分の考えをまとめたりするなどの、多様な学習場面を設定する。
- ③文章の内容や要旨を的確に捉える力を身に付けるために、文脈の中での語句の意味を的確に捉え読みすすめるとともに、抽象的な概念を表す語句や心情を表す語句等にも注意するように指導する。
- ④「話すこと」「聞くこと」「書くこと」「読むこと」の指導を通じて、知識を広げ、言語感覚を磨き語彙を豊かにするように指導する。また、読書活動を推進することにより、様々なジャンルの文章に触れさせ、語彙力を高めていく。

2 数学

- ①文字を用いた式の計算や処理に関する能力を育成する指導の充実を図る。いろいろな数量や文字を使って表す学習活動を適宜取り入れ、文字式を利用してさまざまな性質や事象の説明の演習を行う。
- ②関数的な見方や考え方を用いて、事象を捉える態度を養う指導の充実を図る。日常生活や自然現象の中で関数関係を見出し、興味を持たせ考察することを通して、関数の性質とグラフ等の関連に着目させ、関数的な見方や考え方を養う。
- ③問題の解決に取り組む指導の充実を図る。標本調査の単元で表やヒストグラムで表された数量を読み取り、その特徴を数学的な表現を用いて説明する。また、より身近な日常生活や社会などに関わる疑問をきっかけにして、課題を設定し、その解決の方策を探り、答えを導き出すという目的を持った活動を仕組むことによって、予測したり、判断したりする能力を身に付けさせる。
- ④数学的な推論の理解と論理的に表現する能力を伸ばす指導の充実を図る。生徒が考えたことや工夫したことを数学的な表現を用いて説明し合う活動を多く取り入れ、数学的に表現することのよさを実感させることで論理的に表現する能力を身に付けさせる。
- ⑤生徒が、基礎的・基本的な学習内容を習得することができるよう、少人数指導や習熟に応じた指導、チームティーチングなど、多様な学習スタイルを取り入れた指導を行う。

3 英語

- ①日常的な話題や身近な場面に関わる表現を扱う際に、語と語の連結による音変化や、語や句、文における強勢等を意識しながら、聞いたり話したりさせる。
- ②既習の語や文法事項等の知識を活用して文構造を適切に捉えたり、動詞等の内容語を正確に読み取ったりしながら、書かれているものの内容や必要とする情報を取り出すことができる力を身に付けさせる。
- ③日頃から生徒と英語でのやり取りをする中で、実際に聞いて応じる活動を積み重ね、聞いて把握した内容について適切に応じる力を体験的に身に付けさせる。
- ④書くことが苦手な分量のある英文を書くことができない生徒には、何をどのように書けばよいか、内容、文章構成、語彙や表現の面で手立てを考える。

IV 生徒質問紙の結果より

①きめ細やかな学習指導の充実

習熟度別学習やチームティーチング、学習サポート教室（放課後、長期休業）等を活用して、学習指導の支援や学校生活の支援を行う。

②地域と連携した生徒の健全育成の取り組み

学校・保護者・地域が連携し、生徒の健全育成を目指して取り組む。
四中エリアファミリー幼保小中連携や生徒会活動等を活用し、地域の人材を活用しながら生徒の自己有用感を高め、規範意識の醸成を図る。

③いじめ防止に関する取り組み

年2回の教育相談週間やいじめアンケートで明らかになったいじめ事象に対応し解決を図る。いじめの状況によっては、心の相談員やスクールカウンセラー等を活用して関係機関とも連携しながら丁寧に取り組む。

④規範意識の醸成

道徳教育を通じた規範意識の醸成や、体験活動等の機会を活用し、自他の存在のかけがえのなさを認め合う豊かな人間関係を築く取り組みを進める。

⑤外国語教育の充実

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、他者を尊重し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図るとともに、身近な話題についての理解や表現、簡単な情報交換ができるコミュニケーション能力の基礎を養う。ALTの活用を図る。

⑥教員研修の充実

研修部を中心とした校内研修や公開研究会の実施、外部の研修会への参加を通じて、教員の資質向上及び服務規律の遵守を図ります。また、主体的・対話的で深い学びの実現の視点から、授業の在り方を研究する取組を行う。

⑦読書環境の整備

図書室は、可能な限り児童生徒や教職員が最大限自由に利活用できるよう、また、一時的に学級になじめない子供の居場所となりうることも踏まえ、必要に応じ、図書ボランティア等地域の様々な人々の参画も得ながら運営を図る。
図書委員等の子供が学校図書館の運営に主体的に関わり、図書室を利用して読書を広める活動を行う。